2008年度改訂第2版
監修の序

本書を世に送り出し，早いもので1年が経ちます．この間に本書をご購読いただいた先生方から，温かいお言葉やご意見をお寄せいただきました．紙面をお借りして厚く御礼申し上げます．

さて，本書の目指したところは，研修医の皆様をはじめ，あらゆる医師が日常診療において手軽に活用していただくことができるマニュアルです．初版では，日常診療で出会う症状・症候へのアプローチ，臓器疾患別の薬の使い方，そして諸科にわたって使われる薬剤について取り上げました．

第2版では，初版に対する読者の先生方のお声をできだけ取り入れて，より利用しやすくを合言葉に，体裁はもとより上記内容の改訂を進めました．そして，新薬やガイドライン改訂の追加をはじめ内容の充実を図りました．付録には，中和剤・アンタゴニストの使用，検査・手術前の投薬中止の判断・目安，ジェネリック医薬品一覧も追加いたしました．

本書は，決して網羅的な内容をねらったものではなく，先生方が日常診療の場で確認したいと思われる事項や注意すべき点，そして使用頻度の高い薬剤にさっと目がいくように心掛けています．

本書が一人でも多くの先生方のお役に立ちますれば幸いです．

2008年1月

梶井英治

初版　監修の序

この書をお手にされた皆様へ．

医師になって，29年の年月が過ぎ去ろうとしています．今でも研修医の頃をよく思い出します．医師免許を取得し診療に臨んだとき，学生時代に学んだ知識では対処できないことに気がつきました．研修医になって，一つ一つの判断と決定，それに基づいた医療行為の全てに自らの責任が伴ってきたとき，学生時代に得た知識は知識に留まっていることを突きつけられたのです．研修は，この知識をまさに生きた知識に変え，そしてそれを持って安全かつ有効な診療を提供していくことを学ぶ過程であったと思い返されます．緊張の中に，生きた知識を一つ一つ積み上げていくことの喜びと安堵感に浸りながら，研修医の日々を送ったことが昨日のことのように鮮明によみがえってきます．経験したことや諸先輩の教えをせっせと書き蓄えていったこと，覚えたばかりの薬品名を頭の中で呪文を唱えるかのように繰り返し言い続けたこと，夜，病棟からの連絡に備えて枕元に幾冊かの本を置いて寝ていたことなど，今ではとても懐かしい思い出です．

研修医の皆様と接する中で，自らの研修医時代を振り返り，研修医の皆様が知識を活かし，そして知識のネットワーク化を図るための羅針盤的な本があればと思ってきました．このような思いから発し，このたび，日々研修指導にあたっておられる先生方のメッセージを濃縮し，研修医の皆様をはじめあらゆる医師が日常診療においてまさに痒いところに手が届くようなマニュアルの作成に至りました．

本書は，３章から構成され，第Ⅰ章では，頻度の高い症状，緊急を要する症状を取り上げ，診断および対応のポイントを

簡潔に記載しています．絶対に見落としてはいけないことや絶対に使ってはいけない薬の項も設けています．第Ⅱ章では，臓器・疾患別に薬の使い方の基本，治療ガイドライン，そして実際に用いる薬品の解説を行っています．第Ⅲ章では，抗菌薬，抗癌薬や漢方薬など，諸科にわたって使われる薬品を取り上げています．さらに，日常よく使う輸液製剤の一覧表や配合禁忌についての付録も付けさせていただきました．また，検索項目が瞬時に見つかるように，カラー見出しにしています．各ページには，日々の診療の中から育まれた知恵がまさに詰め込まれています．しかも，持ち歩きに便利な大きさに収めさせていただきました．

本書は，診断から治療へと系統的，かつポイントを押さえた内容となっており，日常診療に必要な知識と薬品の整理・確認にうってつけの一書と思います．是非，研修医の方々のみならず，医療の第一線で多忙な日々を送っておられる医師の方々にも一度本書のページをめくっていただきたく存じます．そして，信頼できる友として傍らに置いていただき，繰り返し使い込んでいただければ望外の幸せです．

2007年 2 月

梶井英治

初版　編集の序

研修医時代のスタート時期にはとかく治療方針や治療薬をマスターするのに苦心することがままあります．そんなとき，あまりに多数の薬剤が列挙され，詰め込まれた本より，ナビゲーターとなる薬剤を核に治療を確立していくことは効率的な方法です．そんな治療薬マニュアルがここに生まれました．

私たちは研修医期間にスーパーローテート臨床研修を行いました．当時は，スーパーローテート臨床研修自体が比較的特殊な存在で，同じコースの少ない研修医同士で，各科の短い研修期間にどうすれば効果的に，そして深い内容の研修が行なえるかということをいつも話しあっていたことを思い出します．教科書には載っていない各科の現場で得た薬剤の使い方などを少しずつメモとして書き留めて，来たる独り立ちの日に備えていました．その光景は今でも思い起こせます．そして，そのメモは何かあると書き込みを加え，表紙がボロボロになりましたが，今でも現役で使っています．

本書は薬に関する単なる断片的知識の羅列ではありません．スーパーローテート臨床研修を実のあるものにしてほしいと願っている指導医・上級医クラスが結集し，全科を有機的に繋げる知識と理解を維持するために必要な備忘録を盛り込んで作成した治療薬のエッセンス本です．研修医だけでなくあらゆる医師，薬剤師の方々にご活用いただき，この本がそうした役割を果たせることを願っています．

最後に，本書が企画から上梓にまで至ることができましたのは，羊土社編集部次長久本容子氏・同部菊地直子氏の多大なるご尽力のお陰であり，感謝いたします．

2007年 2 月

小谷和彦，朝井靖彦